

Annual Report

2023

北上信用金庫

北上信用金庫のミニディスクロージャー

まるみえ

見えしんきん

夏の小滝さん

この街と生きていく。



北上信用金庫



信用金庫イメージキャラクター
信ちゃん鬼剣舞 Ver

業績のご案内

◆ 預金積金及び貸出金の状況

■ 預金の状況

2023年3月期の預金積金残高は、前期比1,667百万円増加の102,506百万円となりました。

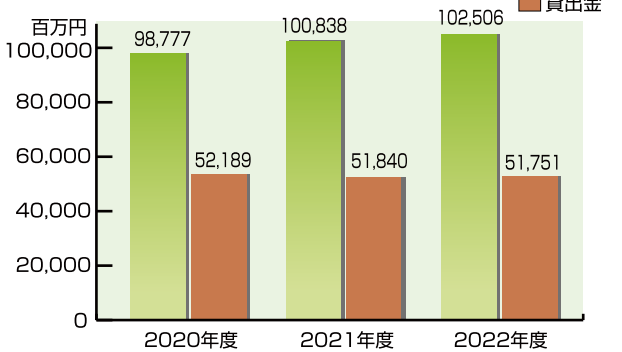
預金積金残高のうち個人預金が70.9%を占めております。

■ 貸出金の状況

2023年3月期の貸出金残高は、前期比88百万円減少の51,751百万円となりました。

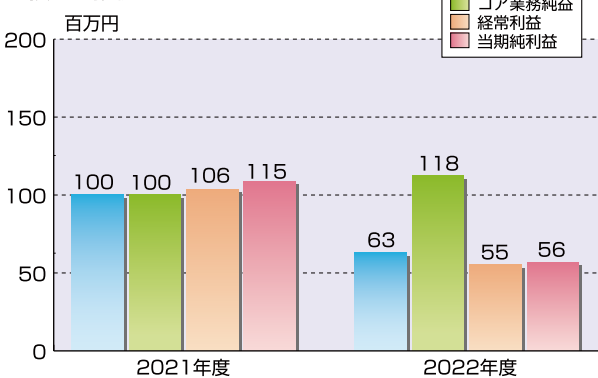
また、特定の取引先や業種に集中することなく貸出を行うことで、地域の発展や活性化に活かされるよう努めております。

■ 預金積金・貸出金残高の推移



◆ 損益の状況

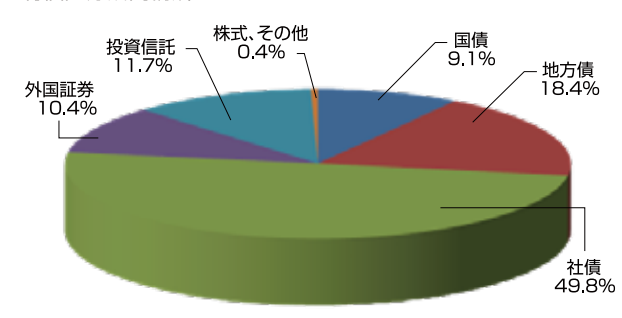
■ 損益の推移



◆ 有価証券の時価情報

お客様からお預かりしております預金積金は貸出金のほか、有価証券等で運用しております。資金の公共性に鑑み、安全性や収益性に留意し、国債をはじめ、公社債等で運用しております。

■ 有価証券残高構成比



■ 子会社・子法人等株式及び関連法人等株式

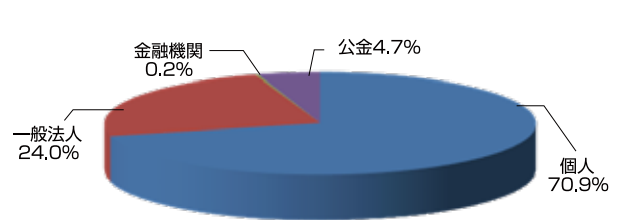
該当ございません。

■ 売買目的有価証券

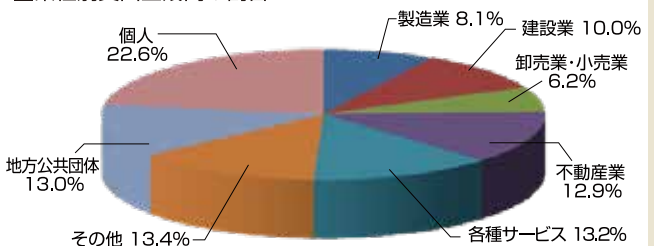
該当ございません。

地元のお客様よりお預りいただいた大切な預金は地元で事業を営む事業者や個人のお客様にご融資することで、地域社会に還元しております。

■ 預金者別預金残高の割合



■ 業種別貸出金残高の割合



安定した収益の確保に努めております。

本業の利益を示す業務純益は63百万円、コア業務純益は118百万円（投資信託解約損益を除くコア業務純益は118百万円）となったほか、経常利益は55百万円、当期純利益は56百万円を計上しました。

地元の事業者や個人のお客さまの資金需要にお応えするとともに、各種リスク管理を徹底し、今後も安定的な収益確保に取り組んでまいります。

※「業務純益」とは、金融機関の利益を見るうえでの重要な指標で、預金・貸出金や為替業務等金融機関本来の業務から生まれた利益です。

※「コア業務純益」とは、業務純益から国債等債券損益を加減したものです。

※「経常利益」とは、業務純益に貸出金償却、貸倒引当金繰入額等の臨時損益を加減したものです。

※「当期純利益」とは、経常利益に特別損益を加減し、法人税等を控除した最終利益です。

市場関連リスクを考慮し、安全な運用に心がけております。

■ 満期保有目的の債券

(単位: 百万円)

	2022年度			
	貸借対照表計上額	差額	うち益	うち損
満期保有目的の債券	1,586	24	39	14

1) 「差額」は、貸借対照表計上額と時価との差額を計上しております。

2) 時価は、2023年3月末における市場価格等に基づいております。

■ その他有価証券

(単位: 百万円)

	2022年度			
	貸借対照表計上額	評価差額	うち益	うち損
その他有価証券	27,490	△725	246	972
株式	1	0	0	-
債券	21,323	△427	110	538
その他	6,165	△298	135	434

1) 貸借対照表計上額は、2023年3月末における市場価格等に基づいております。

2) 上記の「その他」は、信金中央金庫の優先出資証券、日高見ファンド、投資信託及び外国証券です。

3) 「評価差額」は取得原価（償却原価）と貸借対照表計上額との差額を計上しております。

■ 時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券

(単位: 百万円)

	2022年度	
	貸借対照表計上額	
その他有価証券 非上場株式		9

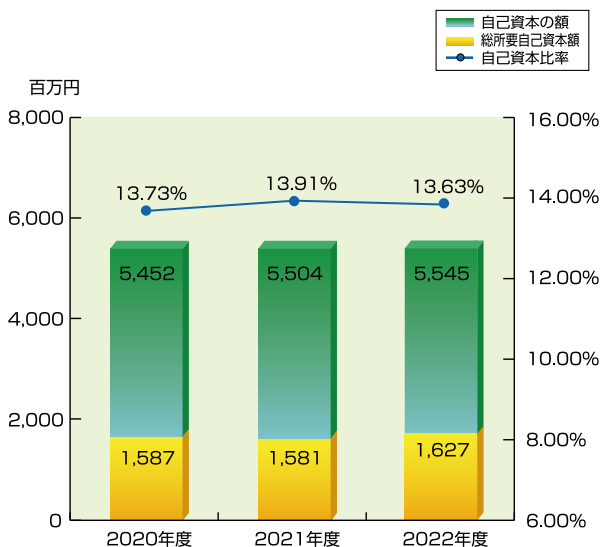
自己資金の充実の状況等について

◆ 自己資本の充実の状況

自己資本比率とは、信用金庫の経営状況を把握する重要な指標です。自己資本比率が高ければ高いほど、財務の安全性・健全性が高く経営基盤が安定しているといえます。

当金庫の2023年3月期の自己資本比率13.63%は、国内基準4%の3倍超、これだけでなく国際基準8%をも優に超えた高い水準を維持し、十分な健全性を確保しており、皆様に安心してお取引いただける経営内容となっております。

■ 自己資本額・総所要自己資本額・自己資本比率の推移



体力には自信があります。

■ 自己資本に関する事項

(単位：百万円)

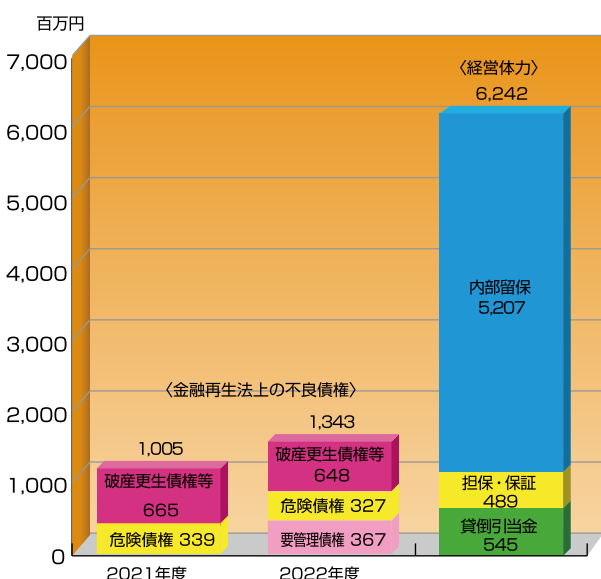
項目	2021年度	2022年度
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	5,755	5,786
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	250	241
自己資本の額 ((イ)-(ロ)) (ハ)	5,504	5,545
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)	39,549	40,677
自己資本比率 ((ハ)/(ニ))	13.91%	13.63%
信用リスクに対する所要自己資本の額	1,493	1,536
オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額	88	91
単体総所要自己資本の額	1,581	1,627

(注)「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出しております。なお、当金庫は国内基準により自己資本比率を算出しております。

- ※「コア資本」とは、会員の皆様からお預かりしている出資金や、一般貸倒引当金などが該当します。
- ※「リスクアセット」とは、オンバランス・オフバランスの各資産項目にリスク・ウエイト(資産ごとにリスクの度合によって定められた掛目)を乗じて算出した額で、自己資本比率の分母になります。
- ※「オペレーショナル・リスク」とは、金融機関の業務の過程、役職員の活動、もしくはシステムが不適切である事などにより損失を被るリスクのことです。当金庫では基礎的手法を採用して算出しております。
- ※「総所要自己資本の額」とは、自己資本比率分母の額に4%を乗じて算出した額のことです。

◆ 金融再生法ベースの債務者区分による開示

■ 金融再生法上の不良債権と経営体力



資産の健全性向上を図っております。

当金庫の金融再生法開示による不良債権は、前期比337百万円増加の1,343百万円となりました。また、不良債権比率は0.66ポイント上昇して2.59%となりました。

これらの不良債権は、担保・保証や貸倒引当金により77.02%保全されているほか、内部留保を加えた経営体力6,242百万円によりカバーされております。

- ※金融再生法開示債権は、「貸出金」に加え、「債務保証見返」「未収利息」「仮払金」を対象債権としております。
- ※2023年3月末時点で実施した自己査定に基づき、金融再生法ベースで開示しております。
- ※「破産更生債権等」とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
- ※「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取ができない可能性の高い債権です。
- ※「要管理債権」とは、「三月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金をいいます。

北上信用金庫と地域社会

～地域社会の発展と活性化をめざして～

◆ 当金庫の地域経済活性化への取組み

当金庫は、北上市、西和賀町を重点事業区域として、地元の中小企業や住民が会員となって、お互いに助け合い、お互いに発展していくことを共通の理念として運営されている相互扶助の金融機関で、地元のお客様からお預かりした大切な資金（預金積金）は、地元で資金を必要とするお客様に融資を行って、事業や生活の繁栄のお手伝いをするとともに、地域社会の一員として地元の中小企業や住民と強い絆とネットワークを形成し、地域経済の持続的発展に努めております。また、金融機能の提供に止まらず、文化、環境、教育といった面も視野に入れ、広く地域社会の活性化に積極的に取り組んでおります。

◆ 地域の活性化のための取組の状況(2022年4月～2023年3月)



「ビジネスマッチ東北2022秋」にお取引先と共に参加しました。各企業にサポート職員を配置し、成約率向上、販路拡大支援に取り組んでいます。



北上市、西和賀町の飲食店を支援するため、当金庫駐車場の一部を開放し販売支援を実施しました。



SDGsの達成に向けた取組みの強化、信用金庫が所在する地域社会への貢献を目的として、フコクしんらい生命保険株式会社と保険販売を通じた共同寄付の取組みを開始しました。



地域経済の発展に一層貢献していくことを目的に、株式会社東北銀行と「包括業務連携に関する協定」を締結しました。

◆地域社会とのふれあい ～これからも地域の行事等へ積極的に参加・協力し、地域に貢献してまいります～



◆第48回 北上信用金庫ゴルフ大会



◆第22回 北上信用金庫杯ソフトテニス大会



◆鬼っジョブ～北上おしごとパーク～



◆いきいきゲーム授業



◆北上みちのく芸能まつり市民パレード



◆ランフェス北上 ボランティア活動